

国語科学習指導案

三原市立樫梨小学校 秋末 裕壮

- 1 日 時 平成 22 年 1 月 20 日（水） 第 5 校時
- 2 学 年 第 5 学年 男子 5 名 女子 3 名 計 8 名
- 3 単元名 身近な生活について討論しよう「インスタント食品とわたしたちの生活」
- 4 単元設定の理由

- 本単元は、小学校学習指導要領国語の「C 読むこと」の指導事項「イ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえること。」「エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。」「A 話すこと・聞くこと」の指導事項「ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。」を指導の重点とし設定した。

教材文は、四つの意味段落からなる明確な尾括型の文章構造となっている。序論で問題を提起し、本論で「便利さ」と「問題点」を述べ、結論で「インスタント食品の便利さを上手に生かしながら、豊かな食生活をつくりあげていきたい」と筆者が主張しており、文章全体の構造がとらえやすい。そして、「また」「さらに」といった接続語や、「一つ目は」「二つ目は」といった表現で、良さと問題点が一つの段落に一つずつ明確に述べられており、段落相互の関係もとらえやすい。

教材文について学習した後、「インスタント食品は積極的に利用すべきである」という論題を設定し、ディベートを行う。ここでは、根拠をもって効果的に自分の考えを主張する力を高めさせることをねらいとする。インスタント食品は子どもたちの生活にとって身近であり、自分たちの生活や経験を基に考えを述べるのに適した論題であると考え。さらに、このディベートを発展させ、身近な生活の問題を取り上げたディベートを行うことにより、話し合いの力を高めていく。

- 三原市標準学力検査の結果から、段落構成や要点・要旨を読み取ることに課題があることが分かった。そこで、1 学期単元では「動物の体」を教材に、形式段落を六つの意味段落に分け、要点をつかみ、文章全体の要旨をまとめていく活動を通して、文章の仕組みや要旨をとらえる学習を行った。各段落の要点を十分にとらえていたので、文章の仕組みはとらえやすかったが、要旨を適切にまとめることができた児童は約 6 割であった。大事な言葉を落とさずに短く書き換えることに課題がみられる。2 学期単元「森林のおくりもの」では、「森林のおくりもの」という題名だけを児童に伝え、「森林のおくりものとは何か」を考え読み進めることを通して、中心的なねらいである「筆者の考えを読み取ること」ができた。しかし、筆者の主張と自分の考えとを比べたり、文章の内容を理解した上で、根拠を明らかにしながら自分の意見を述べたりするまでには至っていない。

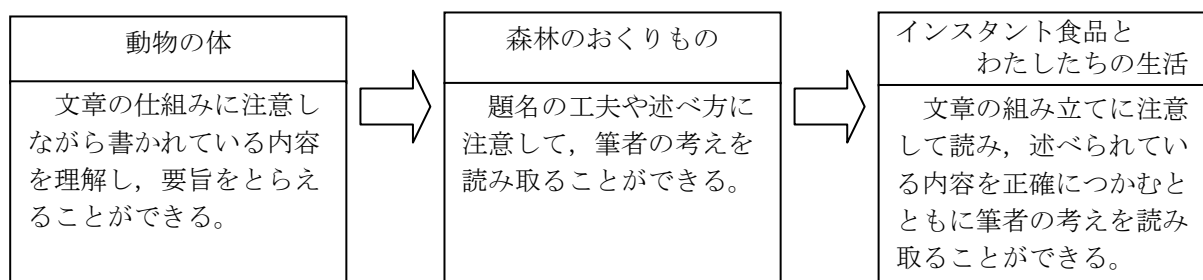
- 導入では、教材文について学習した後「インスタント食品とわたしたちの生活」をテーマにディベートを行うという学習課題を示し、解決するための学習計画を話し合うことによって、学習の目的と見通しをもたせ意欲的に学習に取り組めるようにしたい。

また、第二次の終末においては、結論の段落を削除して教材文を提示することによって、児童に筆者の伝えたいこと何かが主体的に考えさせる。これまでに学習した説明的な文章の読みの方法を活用しながら結論部分を考えさせて、要旨をまとめさせたい。このとき筆者の述べ方にも注目させ、具体的な根拠から自分の考えを述べる述べ方は、読み手に分かりやすく説得力があることに気付かせ、ディベートにおける立論の述べ方に生かせることを学習させる。

さらに、第三次では、他の文章やアンケート資料と比べ読みさせることでいろいろな考え方が

あることに気付かせる。自分の立場を明確にした上で、具体的な根拠と結び付けながら自分の考えを立論として分かりやすくまとめさせたい。そして、これらの学習を生かして、身近なテーマでディベートに取り組ませる。クラスを四つに分け、それぞれテーマを与えて、計画・準備させる。また、ディベートにおいては、判定にこだわらず、友達の発言の仕方のよさや相手の意見を受けて答えることのよさに目を向けさせたい。

5 単元の系統



6 単元の目標

- 身近な生活の問題について話し合おうとする。
- ◎ 文章の組み立てに注意して読み、述べられている内容を正確につかむとともに筆者の考えを読み取ることができる。【C読むこと イ, エ】
- 身近な生活の中の問題について、理由や根拠を明確にしながら話し合うことができる。【A話すこと聞くこと ウ】
- 自分の考えを明確に表現するための段落の組み立て方を理解する。【言語事項 オ（ア）】

7 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 読む能力	エ 言語についての知識・理解・技能
① 身近な生活の問題を取り上げて話し合う学習に関心をもっている。	① 理由や根拠を明確にして、聞き手にわかりやすく話すとともに、話し手の考えを自分たちの考えと比べながら聞いている。	① 述べられている内容を正確にとらえている。 ② 段落構成や内容の中心をもとに、筆者の論の展開や筆者の考えを読み取っている。	① 段落と文章全体の関係をとらえ、文章の構成を理解している。

8 単元の指導と評価の計画（全 10 時間）

次	時間	学習内容	評 価					評価方法
			関意	話す・聞く	読む	言語	評価規準	
一	1	ディベートを行う目的で, 学習を見通して学習計画を立てる。 インスタント食品について知っていることや体験したことを出し合う。	○				ア①教材文を読み, 身近な生活の問題を取り上げて話し合うという学習に関心をもっている。	学習の様子 ノート
二	2	教材文を序論・本論・結論に分け, 文章構成をつかむ。			◎	○	ウ②段落構成や内容の中心をもとに, 筆者の論の展開をとらえている。 エ①序論・本論・結論という文章の展開の仕方を理解している	計画表 行動観察
	3	インスタント食品の良さと問題点について読み取る。			◎		ウ①理由や根拠に注意しながら内容をとらえている。	ノート 発言
	4	インスタント食品の良さと問題点についてそれぞれ反論を考える。			◎		ウ①理由や根拠に注意しながら内容をとらえている。	ノート 発言
	5 (本時)	インスタント食品の良さ, 問題点をもとに筆者の主張を考える。			◎	○	ウ②段落構成や内容の中心をもとに, 筆者の論の展開や筆者の考えを読み取っている。 エ①段落と文章全体の関係をとらえ, 文章の構成を理解している。	ノート 発言
三	6	ディベートの方法を知り, グループに分かれて発表の準備や練習をする。	○	◎			ア①身近な生活の問題を取り上げて話し合うという学習に関心をもっている。 イ①理由や根拠を明確にして, 聞き手にわかりやすく話すとともに, 話し手の考えを自分たちの考えと比べながら聞いている。	ノート 発言
	7	「インスタント食品は, 積極的に利用すべきである。」という論題でディベートを行う。		◎			イ①理由や根拠を明確にして, 聞き手にわかりやすく話すとともに, 話し手の考えを自分たちの考えと比べながら聞いている。	ワークシート 発言
	8	身近な生活の中から論題を決め, グループに分かれてディベートの準備や練習をする。	○	◎			ア①身近な生活の問題を取り上げて話し合うという学習に関心をもっている。 イ①理由や根拠を明確にして, 聞き手にわかりやすく話すとともに, 話し手の考えを自分たちの考えと比べながら聞いている。	ワークシート ノート
	9	身近な生活についてのディベートを行い, 学習のまとめをする。	○	◎			イ①理由や根拠を明確にして, 聞き手にわかりやすく話すとともに, 話し手の考えを自分たちの考えと比べながら聞いている。 ア①ディベートの意義を理解し, 今後の生活に生かそうとしている。	ノート
四	10	発展的教材検証問題			◎		ウ①自分の考えと比べながら, 理由や根拠を明確にして読み取っている。 ウ②段落構成や内容の中心をもとに, 筆者の論の展開や筆者の考えを読み取っている。	検証問題

9 本時の展開

(1) 本時の目標

インスタント食品の良さ、問題点をもとに筆者の考えを読み取る。

(2) 観点別評価規準

段落構成や内容の中心をもとに、筆者の考えを読み取っている。

(3) 準備物

教材文コピー ノート 前時までの文図

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1. これまでの学習を想起し、前時の学習部分を音読する。 - 一人読み 2. 本時の学習課題を確認する。 インスタント食品の良さと問題点をもとに、筆者の考えを読み取ろう。 学習解決の方法を確認する。 ①音読する ②一人学び ・筆者の主張を考える。 ③話し合う ④まとめる 3. 良さ、問題点をもとに筆者の考えの部分を書く。 4. 話し合う ① 筆者の考えをグループで話し合い、交流する。 ② グループでの交流をもとに自分の考えを深める。 ③ 自分で考えた筆者の考えを発表する。 5. 教材文の筆者の考えの意味を考える。 「<u>便利さを上手に生かしながら、豊かな食生活を作り上げていきたいものです。</u>」 6. 次時の学習を確認する。	インスタント食品の良さ、問題点について確認する。 【良さ】 ・家庭料理と同じ味や香り ・長期にわたる保存 ・低価格 【問題点】 ・家庭の味が失われる。 ・料理が下手になる。 ・栄養がかたよる。 ・良さ、問題点の文章を短冊にまとめ、視覚的にとらえやすい板書とする。 ・ 前時のノートや色分けした教材文コピーをもとに「良さ」「問題点」を想起させる。 ・ 題名と関連付け、筆者の考えの内容を書かせる。 ・ グループ内でノートを読み合い、考えを深める。 ・ 自分の考えた筆者の考えと比較しながら聞かせる。 ・ 良い点側・問題点側の立場を明らかにさせた上で、叙述を基に発表させる。 ・ 実際の筆者の考えと自分の考えた筆者の考えとを比べ、「豊かな食生活」の意味を、良さと問題点から考えさせる。 ・ 本論の前半が筆者の考えの前半、後半が筆者の考えの後半にまとめられていることを視覚的に表すことで、すべての叙述が筆者の考えにつながっていることに気付かせる。 便利さを上手に生かしながら 料理をして家庭の個性を守る食生活 栄養がかたよらないように健康を保つような食生活 ・ これまでの学習をもとに、ディベートを行うことを伝え、次時への意欲を高める。	段落構成や内容の中心をもとに、筆者の考えを読み取っている。 (ノート・発言)

